

STIHL®

STIHL RE 361, 461, 471

使用説明書



目次

はじめに	2
使用上の注意	3
スプレー ランスとスプレーガン	
の接続、取外し	5
高圧ホースの接続と取外し	6
給水準備	7
自吸運転	7
電源への接続	8
スイッチを入れる	8
運転操作	8
洗剤の混合	10
スイッチを切る	12
保管	13
シュラウドの取り外し	13
整備	13
オイル交換	14
オイル レベルの確認	15
特殊アクセサリ	15
磨耗の低減と損傷の回避	16
主要構成部品	17
技術仕様	18
トラブルシューティング	19
修理に関する注意事項	20
CE 適合証明書	20

お客様各位

この度はスチール社の製品をお買上げ
いただきまして誠に有難うございます。

この製品は、最新の製造技術と入念な
品質保証処置を施して製造されました。
私共は、お客様がこの製品を支障なく
使用され、その性能に満足していただ
くために最善の努力を尽くす所存で
おります。

製品に関して御質問がおありの際は、お
買上げの販売店あるいは直接当社カス
タマー サービスにお問い合わせ
下さい。

Hans Peter Stihl

Hans Peter Stihl

CE

STIHL®

RE 361 K, RE 361 K PLUS, RE 461 K, RE 461 K PLUS, RE 471 K PLUS

はじめに

シンボルマークについて

マシンに表示されているシンボルマークは、本取扱説明書で説明されています。

操作の説明にはイラストも参照して下さい。

段落の前に付いたシンボルや数字

操作の説明記述にはシンボルや数字が先行することがあります：

- イラストでは示されていないが、必要である作業。

説明文の上又は横に示されているイラストに対応する作業は、該当数字で照合できます。

例：

スクリー (1) を緩めます

レバー (2) を ...

本取扱説明書では、操作に関する説明の他にも、重要な記述の前に以下のシンボルが示されています：

 人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。

 洗浄機本体或いは構成部位の損傷に対する警告。

 洗浄機の操作に不可欠ではないが、より理解し易く、且つ使いやすくするための注意事項。

 環境に優しい使い方への注意。

* 製品内容 / 装備

本取扱説明書は、製品内容が異なる種々の型式に対応しています。全モデルにインストールされていないコンポーネントおよび関連アプリケーションは、(*) のようなマークが付いています。そのような部品は、スチール社販売店で特殊アクセサリとして入手できます。

技術改良

当社は常に製品の改良と開発に努力しております。そのため、形状、技術、装備に関する変更をことわりなく行うことがあります。

この取扱説明書のデーターおよび図などから製品保証などの権利を主張することはできません。

使用上の注意

一般的な注意事項



高圧水が生じます。電源に接続した状態では危険が高まります。



お使いになる前に、必ず取扱説明書をお読みください。特に安全に関する項目にご注意ください。

この高圧洗浄機は、取り扱いに熟知している方がお使いください。

取扱説明書は、本機を使用する全ての人が常に読めるように保管してください。

高圧洗浄機は、子供が使用することは決してできません。

絶対に改造しないで下さい！安全性が損なわれる危険があります。

不適切な延長コードを使用すると、危険をまねく場合があります。

電源ケーブルを延長する場合には、ケーブルの最低断面積を考慮しなければなりません。（「電源への接続」の項を参照）。

延長ケーブルを使用する場合は、防水性のコネクターで接続するか、ケーブルが水に接触しないように敷設してください。

破損箇所が無いことを確認した後で、高圧洗浄機をご使用ください。特に電源ケーブルや高圧ホース、スプレーアタッチメントおよび本体を確認してください。

高圧ホースは、踏みつけたり、引っ張ったり、折り曲げたり、ねじったりしないで下さい。

高圧ホースを引っ張って本体を動かさないようにしてください。

高圧ホースが破損した状態で高圧洗浄機を使用しないで下さい。破損が認められた場合は、直ちに純正部品と取り替えてください。

高圧ホースは、高圧洗浄機の運転許容作動圧力に耐えられ得るものでなければなりません。

運転許容作動圧力と最大許容温度、製造年月は高圧ホースに刻印されています。

接続部にも運転許容圧力と製造年月が記されています。

水溶性の中性またはアルカリ性の洗剤のみを使用して、その使用手順書にご注意ください（洗剤カタログを参照してください）。

不適切な洗剤の使用は健康を害する危険があるばかりでなく、本機や洗浄する対象物の破損にもつながることがあります。

洗剤には、健康に有害な成分（有毒物、苛性物、刺激物）や、可燃性の成分、爆発性の成分が含まれている場合があります。洗剤メーカーの安全に関する説明書に注意してください。

衣服と装備

靴底が滑らない靴を履いてください。



ゴーグル或いはフェースマスクと保護服を着用してください。

スチール社では、誤って高圧水に当たる等の事故を防ぐ目的で、作業服の着用をお勧めしています。

機械の運搬時の注意

機械を車両に載せて運搬するときは、滑り落ちたり、倒れたりしないようにストラップなどでしっかり留める必要があります。

運搬する前に：

給水ホースを洗剤タンクから外してから、ふたを閉め、タンクをきつく締めます。

機械を運搬した後：

機械のスイッチをオンにする前に、リザーブタンクからオイルがポンプハウジングに戻っていることを確認します。オイルレベルを確認して、必要であれば補給してください。

使用上の注意

高圧洗浄機は、ほこりや火花を立てることなく、自動車、機械、容器、建物、家畜小屋などの洗浄、錆取りを行うのに適しています。



洗浄により、危険な物質（アスベストやオイル）を飛散させないようにしてください。必ず当該の処理規定を遵守してください。

アスベストの表面を加圧水・加圧噴霧で洗浄しないで下さい。汚れの他に、肺に突き刺さって肺癌を誘発する繊維が解離することがあります。加圧水や加圧噴霧によって洗浄された表面が乾いた後、特に危険度が高まります。



電源ケーブルに破損が認められた場合は、直ちに電源プラグを抜き取ってください－感電による致命的な危険があります。

ゴムや布等でできた繊細な部分は、ペンシルジェットで洗浄しないでください。高圧ファンジェットでは、ノズルを 15 cm 以上離して使用してください。

始動の前に / 使用に際する注意

スプレーガンのトリガーはスムーズに動き、指を離すと自動的にオフの状態に戻ります。

作業開始前に毎回、高圧洗浄機に異常がないことをご確認ください。特に重要なのは、電源ケーブルと電源プラグ、高圧ホース、ノズル部分、安全装置です。オイルレベルを確認します。

高圧洗浄機を使用している場所に子供やペット、第三者を近づけないでください。

本機は、常に立てた状態で運転してください。

本機の上に物をかぶせず、モーターが十分換気できるようにしてください。

本体は洗浄する対象物からできるだけ遠ざけてください。

電源ケーブルを踏みつけたり、折り曲げたり、引張ったりして傷つけないでください。

電源ケーブルを引張って電源プラグを抜かないで下さい。必ず電源プラグを掴んで引き抜いてください。

電源プラグと電源ケーブルは濡れた手で触らないで下さい。

過熱して火災が発生しないようにケーブルリールから常に完全に引き出してください。

スプレーランスとスプレーガンの接続、取外し

噴射反動に加えて、ノズルの角度による横への力がかかります。これらの力に対応するため、スプレーガンは両手で持ってください。

常に安定した足場に配慮してください。

ご使用になる電圧と周波数が本体のラベルに表記されている数値と同一であることを確認してください。



ショートする恐れがありますので、電気機械に水を噴射しないでください。



本機で作業する人は、本人や他の人に向けて高圧水を噴射しないでください。また、衣類や靴を洗浄する目的に使用しないでください。ケガをする

危険があります！

高圧水を動物に噴射しないでください。



高圧水・水道水にかかわらず、高圧洗浄機や他の電動工具、電気機械に噴射しないでください。ショートする恐れがあります。

整備と修理

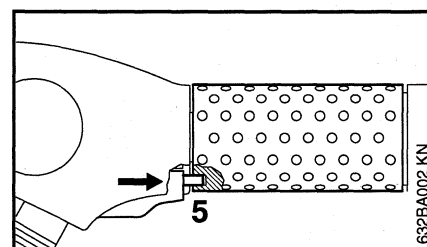
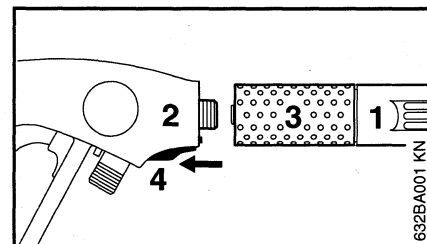
高圧洗浄機のあらゆる作業を開始する前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

取扱説明書に書かれている保守整備や修理だけを行って下さい。その他の件についてはスチール サービス店にお問い合わせください。

スチール純正部品だけを使用して下さい。

主電源ケーブルの修理・交換は必ず、認可を受けた電気専門技術者に依頼してください。

電源ケーブルのプラグと連結部分は、少なくとも飛沫よけの保護がなされていなければなりません。



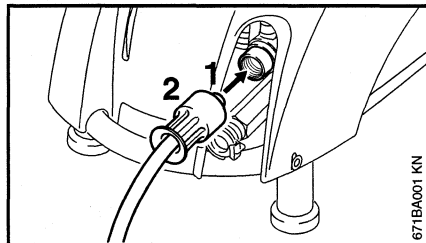
- スプレーランス (1) を
- スプレーガン (2) に差し込みます
- ユニオンナット (3) を差し込んで、数回回します
- 安全ラッチを矢印 (4) の方向に押し、その状態を保持してユニオンナットを締めます
- 安全ラッチを放し、反対方向にユニオンナットを回して、
- ロッキングピン (5) が穴に収まるようにします

取外し

- 安全ラッチ (4) を押し込んで保持しながら
- ユニオンナットを緩めます。

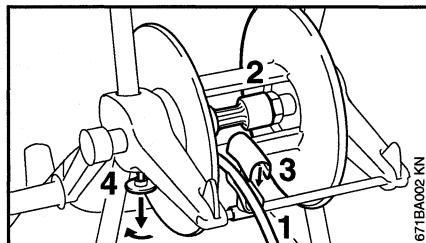
高圧ホースの接続と取外し

ホース リールなし機種



- 高圧ホース (1) を本体の吐出口に差し込みます。
- ユニオンナットを (2) 手で締めます。

ホース リール付き機種



- 高圧ホース (1) をホース リールの吐出口に差し込みます。
- ユニオンナットを (2) 手で締めます。

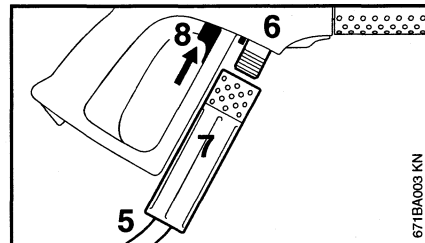
- 高圧ホースをホース ガイド (3) に取り付け、ホース ガイドを閉じます。
- ホース リールのロック (4) を解除して、リールに高圧ホースを巻き込みます。

ホース リールのロックを解除するには、ノブを引き下げて、反時計回りに回します。

ホース リールをロックするには、リール ロックのノブを時計回りに回して、ノブがカチッとはまるまでクランクをゆっくりと移動します。

● 必要ならば、高圧ホースを本体の高圧ホース コネクタに直接に接続できます。この場合、高圧ホース コネクタのユニオンナットを緩めて、取り外します。
サイズ 8 アレンキー付きバンジョー ボルトを緩めて、取り外します。高圧ホースをホース リールから外します。ホース リールを取り外して、高圧ホースを本体に再度直接に取り付けます。

スプレーガン側

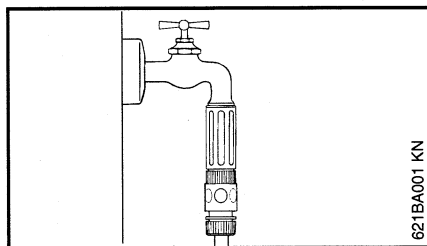


- 高圧ホース (5) をスプレーガン (6) に押し込みます。
- ユニオンナットを締め込んで固定します (7)。

高圧ホースの取り外し

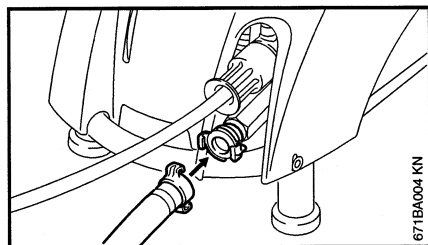
- 矢印の方向に安全ラッチ (8) を押し込んだ状態で保持して、次にユニオンナットを緩めて取り外します。

給水準備



ホースを水ですすいでから、機械に接続して、砂やほこりなどが機械内部に流れ込まないようにします。

- 給水ホースを接続します



- 爪をはめ込み、止まるまで時計回りに回します

本機は河川水や貯水槽などからも給水可能です。「自吸運転」の項を参照。

自吸運転

- 本機を加圧水に接続し、本取扱説明書の説明通りに短時間運転します
- スイッチを切ります
- 高圧ホースを取り外します
- 給水ホースを自吸ホース(特殊アクセサリ)に取り替えます

特殊アクセサリとして提供される自吸ホースの専用コネクターだけを接続してください。

- 自吸ホースに水を満たし、吸水ベルを貯水槽の中に入れます。
汚水は使用しないで下さい。

- スイッチを入れる
- 高圧ホース用コネクターから水が均一に噴出するまで待ってください
- スイッチを切ります
- 高圧ホースを接続します
- スプレー ガンを開けた状態で本機のスイッチを入れます
- 本機内の空気をできるだけ速く排出させるため、スプレー ガンのトリガーを数回握ります

電源への接続

ご使用になる電圧・周波数と本体の型式プレートに表記されている運転電圧・周波数が同一であることを確認してください。

本機は、接地への漏れ電流が 30 ms で 30 mA を超える場合に遮断する漏電遮断器を設置した電源に接続してください。

- 適切に装備された電源コンセントにプラグを差し込みます

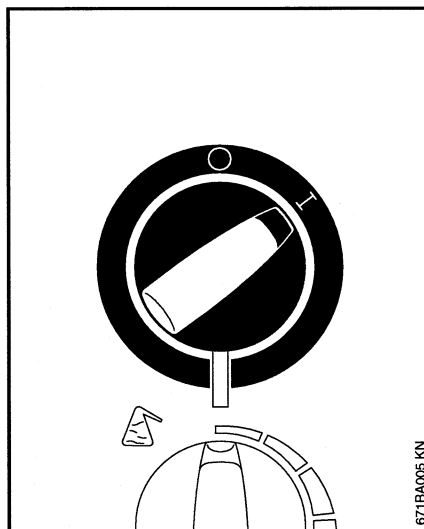
電源延長ケーブルを使用する際は、電線の最小断面積に注意してください。延長ケーブルは、本機の保護クラスが保持されるように敷設してください。

電圧	ケーブルの 断面 長さ
200 V	最大 10 m 3.5 mm ²
	最大 30 m 5.5 mm ²

スイッチを入れる

- 水道栓を開きます

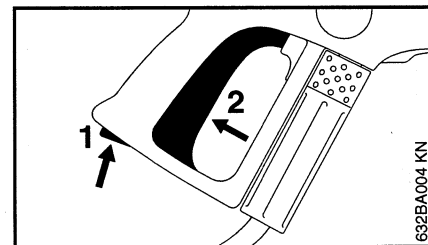
給水ホースを接続し、水道栓を開いた状態でのみ本機のスイッチを入れます。さもないと、給水量が少なすぎるため、高圧洗浄機に損傷をもたらすことがあります。



- スイッチをⅠ位置に入れます
- スプレー ガンを洗浄する対象物に向けます –
決して人には向けないで下さい。

運転操作

スプレーガンのトリガーを握る

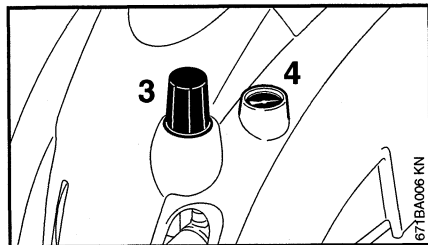


- スプレー ガンを洗浄する対象物に向けます
- ロータリーノズルが装備されている場合は、下方に向けて支えます
- 安全レバー (1) を強く押すと、スプレーガンのロックが外れます
- ここでトリガー (2) を握ります
トリガーを放すと、モーターはオフになります。

運転待機

- ⚙ 本機は 5 分間以上運転待機状態にしてはなりません。本機を 5 分以上使用運転しない場合、スイッチを切ってください。

本機側での圧力 / 水量の調整

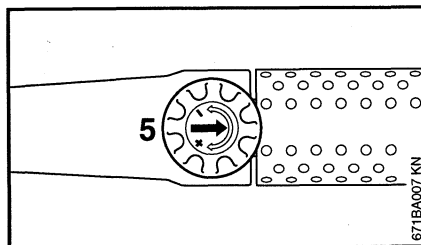


洗浄作業の性質上、連続使用する場合、作業に応じて圧力および水量を高圧ポンプ上で調節することができます。

- コントロール ノブ (3) で吐出圧力と水量を設定します
- 圧力ゲージ (4) がポンプ圧力を表示します

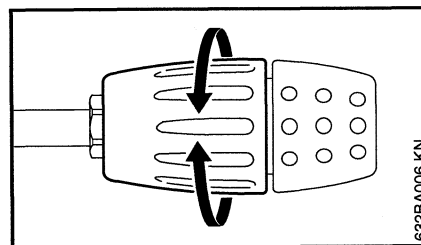
表示された圧力は、必ずしもスプレーヘッド前のスプレーランスの圧力とは限りません。スプレーヘッド前の圧力値はバリオプレスバルブの設定によります。

スプレーガン側での圧力 / 水量の調整



洗浄作業の性質上、短期間使用する場合、吐出圧力と水量をスプレーガン側で調整できます。

- バリオプレスバルブ (5) で吐出圧力と水量を設定します



吐出圧力は無段階にノズルヘッドで変えることができます。

- セレクタースリーブを回して、吐出圧力を調整します。水量は変化しません

ホース

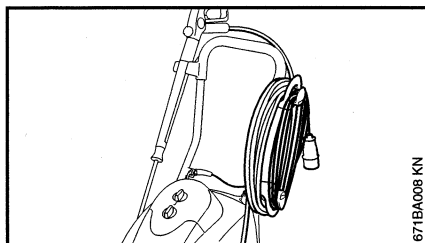
- ⚙️ 高圧ホースは、よじったり、ループ状にしないでください。

高圧ホースの上に重い物を置いたり、車両がホースの上を走行しないように注意してください。

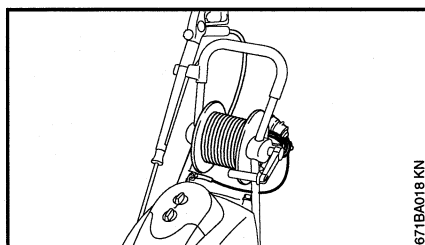
アクセサリーの保管

電源ケーブルと高圧ホースを巻き上げます。スプレー アタッチメントは機械本体に付けたまま直接保管します。

ホース リールなし機種



ホース リール付き機種



RE 461 K、RE 461 K PLUS、 RE 471 K PLUS の場合のみ

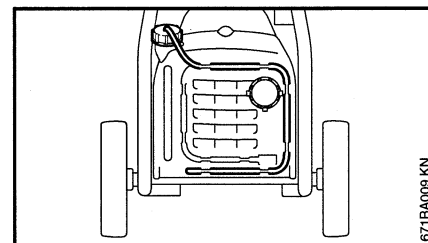
安全装置

機械の電源をオンのままにして 30 分以上使用しない場合、自動的に電源がオフになります。これにより、不意にスプレーガンが作動することがありません（例：許可されていない人の使用）。運転を再開するには、機械の電源をオフにしてからオンにします。

モーターの惰力機能

ポンプは、スプレーガンを閉じた後、モーターのスイッチをオフにする前に約 20 秒間、圧力なしでバイパス モード作動を続けます。これにより、自動電源オフ機能が不要に作動せずに済みます。

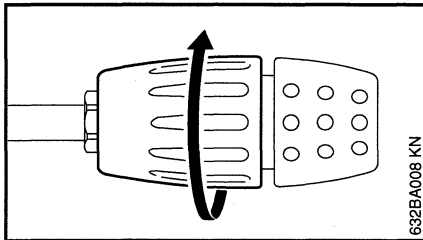
洗剤の混合



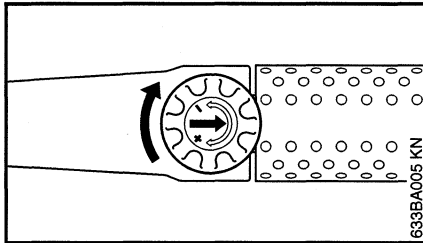
- 次のように洗剤を希釈します
- 洗剤タンクのキャップを取り外し、洗剤をタンクに充填します
- 洗剤タンクのキャップをねじ込み、洗剤吸入ホースを溝から取り外します
- 自吸ホースを洗剤タンクに止まるまで押し込みます

洗剤は、洗浄する対象物の表面で乾燥させないでください。

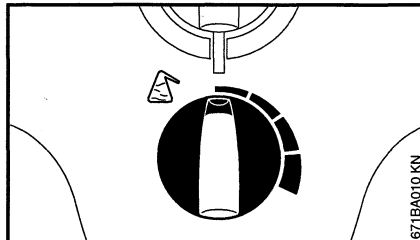
高圧ホースの延長ホースを使用している場合は、洗剤混合はできません。



- セレクター スリーブを矢印の方向に止まるまで回します(低圧モード)
洗剤を混入できるのは低圧モードの場合だけです。



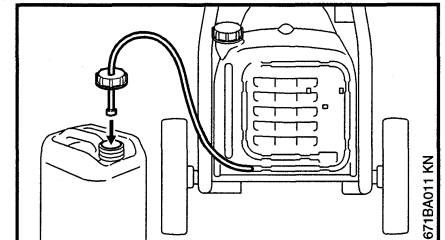
- バリオプレス パルプを矢印の方向に止まるまで回します



- 次のように混入する洗剤の量をセットします
ノブを左に回す：0% (最低)
ノブを右に回す：5% (最大)

洗剤の混合を停止する場合：

- 洗剤調合バルブを左に止まるまで回します
- スプレーガンを約 5 秒間握って運転します
- 「スイッチを切る」の項を参照してください
- 吸入ホースを溝にはめ込み、キャップをホルダーにカチッとはめ込みます。



洗剤を別の容器から混合します：

- 洗剤吸入ホースを付けたまま、洗剤タンクのキャップを取り外します
- 洗剤吸入ホースを付けたまま、キャップを別の洗剤容器にねじ込みます

💡 キャップのねじ山は標準的なので、すべての標準的な洗剤の容器に取り付けられます。標準的でない容器のねじ山の場合、吸入ホースからフィルターを取り外して、ふたを取り外します。フィルタを吸入ホースに再度差し込みます。

正確な洗剤濃度の計算と設定

洗剤によっては濃度を厳密に設定する必要がある場合もあります。この場合に、水の流量と洗剤の消費量を測定しなければなりません。

- 前述の説明にしたがって、機械を低圧モードにセットします
- 洗剤のコントロールノブを左いっぱいの「0」位置にセットします
- スプレーガンを適切な空の容器(> 20 リットル)に差し込み、正確に1分間、運転します
- 水量「Q」を測ります
- 前もって希釈した洗剤2リットルを適切な洗剤容器(0.1 L ほどのメモリ付き)に充填します
- 洗剤吸入ホースを容器に差し込んだままにします
- 洗剤用コントロールノブを要求する濃度にセットします: 0% ~ 5%
- スプレーガンを適切な空の容器(> 20 リットル)に差し込み、正確に1分間、運転します
- 洗剤の消費量「Q_R」の目盛を読みます

実際の洗剤濃度を計算します:

$$\text{濃度} = Q_R / Q \times V$$

(単位 %)

実際の濃度が要求値と異なる場合、適切にノブを調整して、必要に応じて測定を繰り返します。

Q_R = 洗剤の消費量 (単位 l/min)

Q = 洗剤なしの水量 (単位 l/min)

V = 洗剤の事前の希釈率 (単位 %)

事前の希釈率

事前の希釈率が % 値で記載されていない場合は、以下の表を参照してください:

割合	% 値
1:1	50
1:2	33.3
1:3	25
1:5	16.6
1:10	9

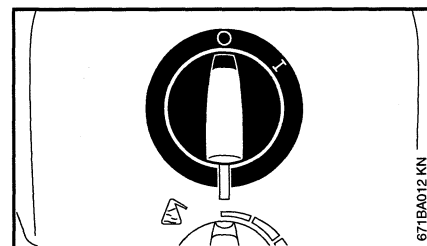
例:

割合 1:2

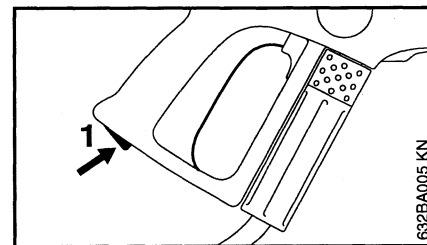
1 = A、2 = B

$$\begin{aligned} \text{\% 値} &= A / (A+B) \times 100 \\ &= 1 / (1+2) \times 100 \\ &= 33.3 \% \end{aligned}$$

スイッチを切る



- スイッチを 0 位置に回します
- 水道栓を閉めます
- スプレーヘッドから水滴が垂れるだけになるまで、スプレーガンを開いた状態にします - 機械はこれで十分に減圧されます
- トリガーを放します



- スプレーガン上のスロットル トリガー 安全レバー (1) を押します

スプレーガンはロックされるので、誤ってトリガーを引いてしまうことはありません。

- 電源プラグをコンセントから抜きます
- 本機から給水ホースを取り外します。

保管

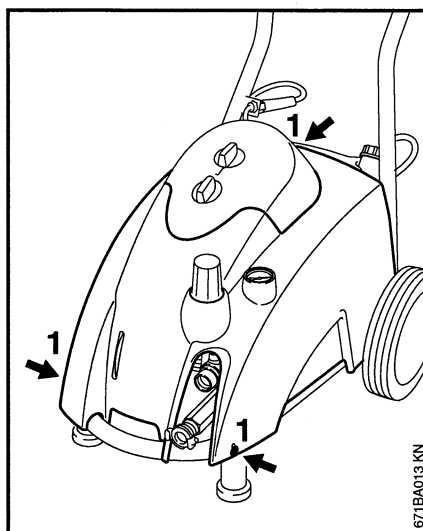
本機は、凍結の恐れがない乾燥した場所に保管してください。

凍結の恐れがある場合：

自動車に使用されるのと同様のグリコールベースの不凍液をポンプに吸い上げます：

- 給水ホースを不凍液を入れた容器の中に入れ
- スプレー ガンをスプレー ランスを取り付けずに同じ容器の中に入れます
- スプレー ガンを開けた状態でマシンのスイッチを入れます
- 吐出量が均一になるまで、スプレー ガンのトリガーを握ります
- 残った不凍液は密封容器に保管してください

シュラウドの取り外し



- 高圧ホースと給水ホースを外します
- スクリュー (1) 5 本を外します
- シュラウドを外します

整備

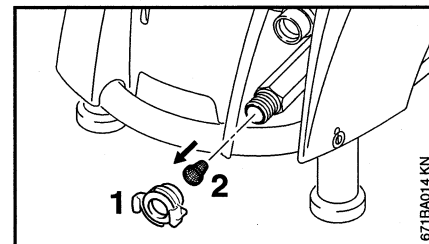
警告！ 機械の整備や洗浄作業を始める前には必ずプラグを電源から抜いてください。

支障のない運転を保証するため、使用するたびに以下の作業を行うようにお勧めします：

- 給水ホース、高圧ホース、スプレー ランス、およびアクセサリを取り付ける前に水ですすいでください
- カップリングなどの接続部に付着した砂やほこりをすべて取り除いてください

給水ストレーナーの洗浄

給水ストレーナーは必要に応じ、毎月 1 回あるいは必要に応じてそれ以上に頻繁に洗浄してください。



- 給水口のカップリング (1) を取り外します
- スクリュードライバーでストレーナー (2) を慎重に取外して洗浄します
- 再度ストレーナーを取り付ける前に、損傷がないことを確認し、損傷があれば交換します

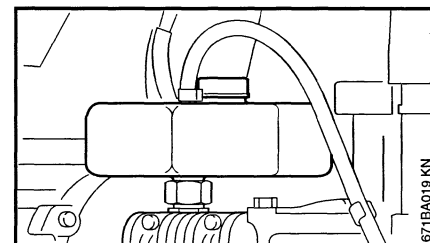
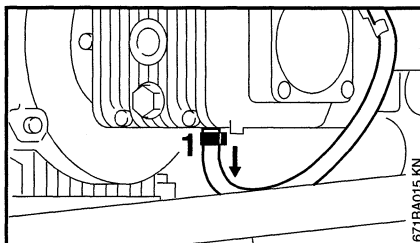
オイル交換

通気開口部の掃除

冷却空気が開口部から障害なく出入できるように、本機をきれいな状態で維持してください。

カップリングへのグリース塗布

高圧ホースに接続するスプレーガンのカップリングには、必要に応じてグリースを塗布します。

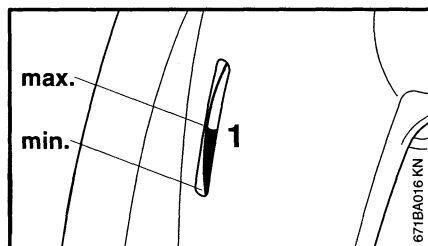


最初は 50 作業時間後にオイルを交換します。その後は 6 ヶ月または 500 作業時間ごとにオイルを交換します。

- 本機を暖めます
- シュラウドを外します
- ホース クリップ (1) を取り外します
- ホース ニップルからホースを外します
- オイルを適正な容器に流し入れます
- ホースを再度取り付け、ホース クリップで固定します
- 法定規制にしたがって廃棄オイルを処分してください

- リザーブタンクに新しいオイル (450 ml、SAE 15 W 40) を充填します
- シュラウドを再度取り付けて、オイル レベルを確認します

オイル レベルの確認



毎週オイル レベルを確認します。

- オイル レベルが「最低」と「最高」(1) のマークの間にあることを確認します
- 必要に応じて、オイルを充填します (SAE 15 W 40、「オイル交換」を参照)

特殊アクセサリ

使用上の注意

ロータリーブラシ
内側ブラシを交換できます。

ウォッシュ ブラシ
ストレートおよびアングル タイプのスプレーランスに使用します。

ストレート スプレーランス
長さ 350、500、950、1070、1200、1800、または 2500 mm。

アングル タイプのスプレーランス
長さ 840 mm または 1070 mm。他の人が隠れて見えない場合がありますので、アングル タイプのスプレーランスで洗淨物の向こう側に直接、噴射しないでください。

延長用高圧ホース
金属メッシュ補強型、長さ 10、15、または 20 m。
延長用高圧ホースは 1 度に 1 本 だけしか使用できません。

高圧ホース 用カップリング
高圧ホースと延長用高圧ホースの接続用。

ウェットサンドブラastingキット
砂や金属粒子などを用いるサンドブラasting用。

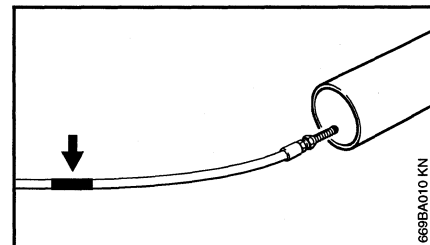
水フィルター

井戸水やタンクからの供給水の浄化および自吸運転作業用。

自吸ホースセット

プロフェッショナル用、長さ 3/4"、3 m。

パイプクリーニングセット



長さ 10 m または 20 m。

パイプクリーニングホースの先端間近にマーキングが付いています。ホースを配管から抜く際は、マーキングが見えた時点で：

- スイッチを切ります
- 機械内部が充分に減圧されるまでスプレーガンのトリガーを握ります
- 配管からホース全体を抜き取ります

パイプクリーニングホースを抜く前に、必ず機械のスイッチを切ってください。

磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、高圧洗浄機の過度の磨耗や損傷が回避されます。

高圧洗浄機の使用、整備並びに保管は本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合の様に、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わずに使用したこと起因する全ての損傷に付いては、ユーザーが責任を負います：

- 凍結による損傷
- スチールが許可していない製品の改造
- スチールが許可していないアタッチメントやツールの使用
- 指定外の目的に製品を使用
- 損傷部品を装備したままで高圧洗浄機を使用したことから生じる派生的損傷
- 不適当な供給電圧・周波数による損傷

- 不適切な給水（例：給水ホースの内径が小さすぎる）による損傷
- 不適切な保管に起因する腐食並びにその他の派生的損傷
- スチール純正スペアパーツ以外の部品を使用したことに起因する損傷並びに派生的損傷
- スチール サービス店以外で行った整備あるいは修理作業が原因で生じた損傷

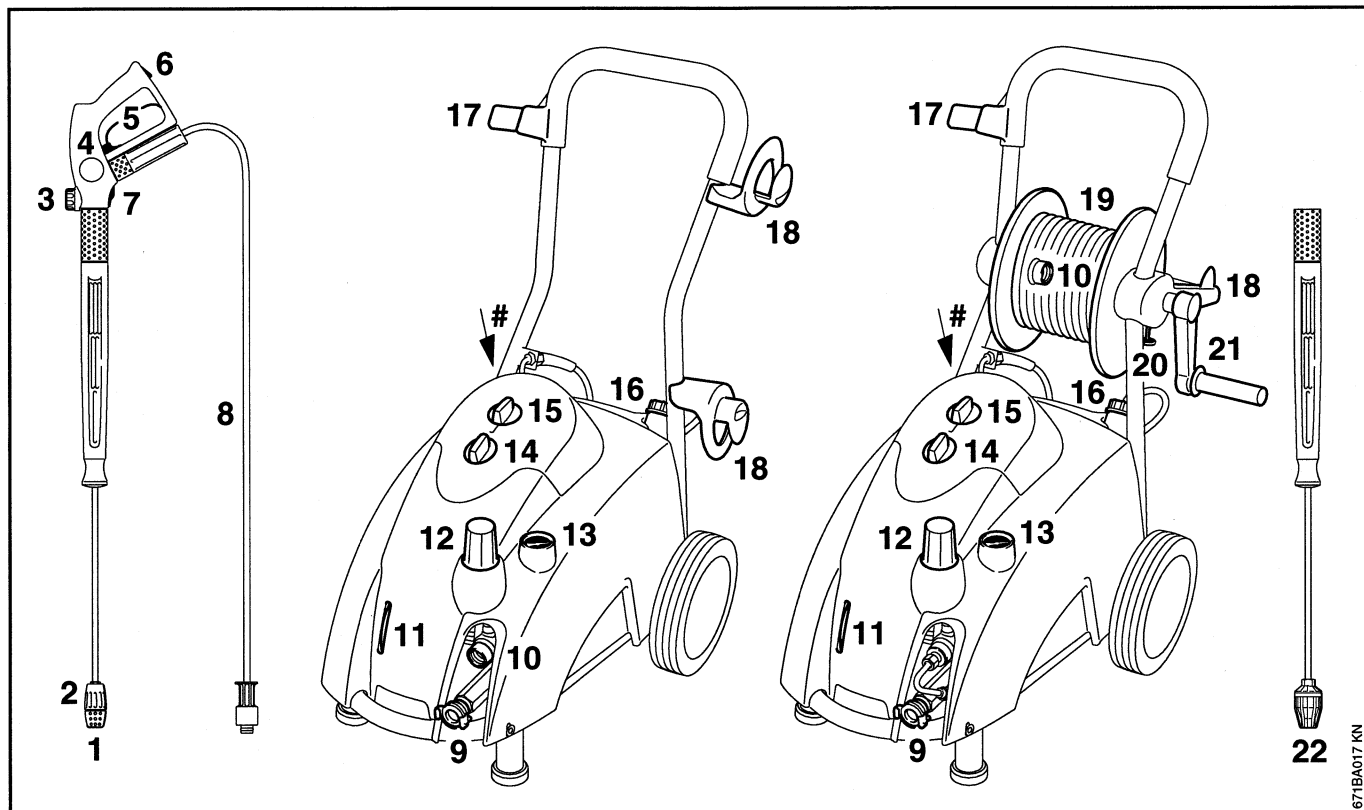
磨耗部品

高圧洗浄機の部品によっては、規定通りに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。

上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- 高圧ノズル
- 高圧ホース

主要構成部品



- 1 = スプレーヘッド
- 2 = 水圧調整スリーブ
- 3 = バリオプレスバルブ
- 4 = 高圧ホース用安全ラッチ
- 5 = トリガー
- 6 = 安全レバー
- 7 = スプレーランス用安全ラッチ
- 8 = 高圧ホース

- 9 = 給水口
- 10 = 高圧ホース用コネクタ
- 11 = オイルレベルインジケータ
- 12 = 圧力/水量コントロールノブ
- 13 = 圧力ゲージ
- 14 = 洗剤コントロールノブ
- 15 = スイッチ
- 16 = 洗剤タンク
- 17 = スプレーアタッチメント用ホルダー

- 18 = 電源ケーブルと高圧ホース用ブラケット
- 19 = ホースリール (オプションまたは PLUS バージョン用アクセサリ)
- 20 = リールロック (オプションまたは PLUS バージョン用アクセサリ)
- 21 = ホースリール用クランクハンドル (オプションまたは PLUS バージョン用アクセサリ)
- 22 = ロータリーノズル (オプションまたは PLUS バージョン用アクセサリ)
- # = 型式プレート

日本語
技術仕様

	RE 361 K	
電圧	200 V	200 V
周波数	50 Hz	60 Hz
作動圧力	20 から 180 bar	20 から 180 bar
最大許容圧力	250 bar	250 bar
最大噴射反動力	53 N	53 N
最大吐出水量	1080 l/h	1080 l/h
EN 60335 ごとの吐出水量	250 から 1000 l/h	250 から 1000 l/h
最大吸水高	2.5 m	2.5 m
最大給水圧	10 bar	10 bar
最大給水温度 :		
- 加圧作動時	60 °C	60 °C
- 自吸運転時	50 °C	50 °C
接続負荷	6.5 kW	6.5 kW
ヒューズ	32 A ¹⁾	25 A ¹⁾
保護クラス	I	I
保護タイプ	IP X5	IP X5
高圧ホース	10 m	10 m
オイル グレード	SAE 15 W 40	SAE 15 W 40
量	450 ml	450 ml
長さ (約)	760 mm	760 mm
幅 (約)	530 mm	530 mm
高さ (約)	1010 mm	1010 mm
重量 (約)	60 kg	60 kg
音圧レベル (距離 1 m)	74.2 dB(A)	74.2 dB(A)

1) ブレーカー タイプ EN 60 898 準拠

トラブルシューティング

本製品をお手入れになる前に、電源プラグを抜き、水道栓を閉め、本体および高圧ホースの残圧が無くなるまでスプレーガンのトリガーを引いてください。

トラブル	原因	処置
スイッチを入れても、モーターが起動しない(ブーンと音がする)	電源電圧が低すぎる或いは適切でない。または周波数が適切でない	電圧と周波数を確かめる。電源接続部を点検する。プラグ、ケーブル、スイッチを点検する
	延長ケーブルの断面積が小さすぎる	十分な断面積を持つ延長ケーブルを使用する。「電源への接続」の項参照
	安全ブレーカー或いは漏電ブレーカーがオフになっている	本機のスイッチを切り、スプレーヘッドから水滴が垂れ落ちるまでスプレーガンのトリガーを押す。安全レバーをオンにする。電源ブレーカーをオンにする
	スプレーガンのトリガーを引いていない	本機のスイッチを入れる時、スプレーガンのトリガーを押す
圧力が一定でない、或いは圧力が低下する	供給水量が少なすぎる	水道栓を完全に開く。許容された自吸リフト(自吸運転のみ)以内を保つ。給水ホースの内径と長さを確認する
	ポンプへの流入路内の水フィルターが詰まっている	水フィルターを掃除する
モーターが停止する	過熱が原因でモーターがオフになった	電源および本機の電圧と周波数が一致しているか確認する。モーターを最低3分間冷却させ、再びスイッチを入れる
洗剤が出ない	洗剤タンクが空	洗剤タンクに洗剤を満たして、必要ならば調合ノブを調整する。「洗剤の混合」項参照
	洗剤吸上部が詰まっている	詰まっている部分をきれいにする
	インジェクターが磨耗している	本機の修理は、スチールサービス店に依頼してください
不十分で、均一でない噴射形状	スプレーヘッドの高圧ノズルが汚れている	高圧ノズルを洗浄し、必要に応じて交換する

修理に関する注意事項

本機を使用する方は、本取扱説明書に記述されている整備作業だけを行ってください。それ以外の修理はスチール スチールサービス店に依頼してください。

修理の後の保証は、スチール公認のサービス ショップでスチール純正部品を使用して修理を行った場合に限りです。

スチール純正部品には、スチール部品番号、ロゴマーク **STIHL** およびシンボルマーク **SA** が刻印されています。小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。

CE 適合証明書

Andreas Stihl AG & Co. KG
Badstr. 115
D-71336 Waiblingen

は、下記の新型マシンが

製品名： 高圧洗浄機
メーカー名： STIHL
型式： RE 361 K / Plus
シリーズ番号： 4747
型式： RE 461 K / Plus
RE 471 K Plus
シリーズ番号： 4748

EC 指令 98/37/EC、73/23/EEC、89/336/EEC および 2000/14/EC の規制に適合していることを証明します。

この製品は次の規格に準拠して開発、製造されました：
EN 292-1、EN 292-2、EN 60335-1、
EN 60335-2-79、EN 55014-1、
EN 55014-2、EN 61000-3-2。

音響出力レベルは、測定値並びに確保数値共に、2000/14/EC の補遺条項 V 規定に準拠した ISO 3744 に基づいています。

音響出力レベル

RE 361 K / PLUS	
測定値	87.7 dB(A)
確保値	89 dB(A)

RE 461 K / PLUS	
測定値	86.7 dB(A)
確保値	88 dB(A)

RE 471 K PLUS	
測定値	88.2 dB(A)
確保値	90 dB(A)

技術資料の保管場所：

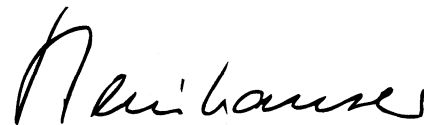
Andreas Stihl AG & Co. KG

製品許可部

2003 年 9 月 1 日 Waiblingen にて発行

Andreas Stihl AG & Co. KG

代理人



Steinhauser

製品管理グループ /

技術サービス部長